

# 多言語版 Wikipedia 記事分析による 日本マンガ著者の海外進出状況調査の可能性

江藤 正己

## 1. はじめに

日本のマンガ（日本マンガ）は海外においても人気を得ている<sup>1)</sup>。しかしながら、どのようなマンガが、どのような国や地域に進出しているかについては、まだ明らかになっていないことが多い。これまで本稿の筆者は、日本マンガの海外進出状況について、様々な角度から分析をおこなってきた<sup>2), 3), 4)</sup>。

本稿は、これら既におこなった分析のうち、Wikipediaの記事分析の可能性を示した先行研究<sup>5)</sup>をさらに進めるものである。この先行研究では、「ある日本マンガについて、他言語のWikipedia記事が作成されている」ことは「記事が作成された言語の文化圏において、当該のマンガが何らかの形で進出している」という発想をもとに、Wikipediaの記事数に基づいた定量的な分析をおこなっている。

本稿では、マンガ作品ではなく、日本マンガの著者（日本マンガ著者）に着目する。日本マンガの海外進出状況を調査するにおいて、マンガの著者も重要な要素であり、本稿の筆者もこれまで分析の対象としてきた<sup>6), 7)</sup>。本稿では、前述した先行研究<sup>5)</sup>と同様に、「ある日本マンガ著者について、他言語のWikipedia記事が作成されている」ことは「記事が作成された言語の文化圏において、当該の日本マンガ著者が何らかの形で進出している」という発想をもとに、日本マンガ著者の海外進出状況を分析する。

さらに、本稿では日本マンガの海外進出状況に対する新たなWikipediaの記事分析の方法として、記事に含まれる情報量を用いる。先行研究では、Wikipediaの記事を分析する際に、Wikipediaの記事が「存在する」か「存在しない」の2値的な情報を用いており、海外進出状況を明らかにするにおいて限界があった。本稿では、Wikipedia記事の情報量をもとに、より詳細に海外進出状況をとらえることを試みる。

本稿の目的は、多言語版Wikipedia記事分析による日本マンガ著者の海外進出状況調査の可能性を明らかにすることである。具体的には、(観点1)「日本マンガ著者を対象とした海外進出状況を調査できるか」、(観点2)「記事の情報量に基づいて分析することにより従来よりも詳細な調査をおこなうことができるか」の二つの観点についてその可能性を検証する。

## 2. Wikipedia記事数からみた日本マンガ著者の海外進出状況

ここでは、観点1の可能性を検証するために、先行研究<sup>5)</sup>と同様にWikipediaの記事数に基づいた分析をおこなう。具体的には、日本マンガ著者リストを作成した後、リストに含まれるマンガ著者のWikipedia記事を特定し、集計する。

### 2. 1 日本マンガ著者リスト

日本マンガ著者リストは、筆者がこれまでにおこなってきた研究<sup>6)</sup>において用いたものを使用する。このリストは各国の国立図書館等の名称典拠レコードを機械的に同定し結び付けたバーチャル国際典拠ファイル (Virtual International Authority File)<sup>8)</sup> (以下VIAFとする) を基に作成されており、4,008の日本マンガ著者からなる。なお、この著者リストでは、マンガの原作者等も対象となるため、たとえば東野圭吾のような小説家でありマンガを直接的に描いていない人物も含まれている。

このリストは、VIAFで提供されている著者データ (2019年に公開されたviaf-20190107-clusters-marc21.xml.gz) を基にしたものである。この著者データにはのべ33,239,295人のデータが含まれており、そのデータに対し次の二つの手順をおこないリストが作成されている。(1) 活動領域 (fieldOfActivity タグ) において、manga, comic, graphic novel等が含まれているもの、職業 (occupation タグ, x400s タグ) においてmangaka, cartoonists, manga, komikushi, band dessinees, 漫画家等が記述されているものを抽出する。(2) 国タグ (associated country) を用いて、日本マンガ著者を特定する。一つの著者に対して、複数の国の情報がある場合は、最も多い国の情報があるものを当該の著者の国とする。

### 2. 2 Wikipedia記事の特定方法

2. 1で示したリストに含まれる各日本マンガ著者のWikipedia記事を特定する。この作業においては、VIAFで提供されている外部リンクに関するデータ (2023年に公開されたviaf-20230801-links.txt.gz) を用いる<sup>9)</sup>。このデータには、日本マンガ著者の各言語版におけるWikipedia記事のURL等がのべ111,779,350件含まれている。

この外部リンクに関するデータと2. 1で作成した日本マンガ著者のリストには、それぞれVIAFのIDが含まれている。両者のVIAFのIDを突合せさせることによって、マンガ著者ごとに、どの言語版のWikipediaページが存在するのかについて特定できる。

### 2. 3 記事数による分析の結果

2. 2で述べた方法により、著者ごとにWikipediaの記事数を集計したものが表1である。最も多くの言語版でWikipedia記事が書かれているのが宮崎駿で、91の言語版が存在した (具体的な言語については表4を参照)。また、2位の手塚治虫に続いて、ドラゴンボー

ルの著者である鳥山明と、NARUTO-ナルト-（以下NARUTOとする）の著者である岸本斉史が3位、ONE PIECEの著者である尾田栄一郎が4位となっている。特に岸本斉史は、鳥嶋（元週刊少年ジャンプ編集長）が海外ではONE PIECEよりもNARUTOの方が人気が高いと述べており<sup>10)</sup>、また2023年にGoogleで世界的に最も検索された言葉（アニメカテゴリ）である<sup>11)</sup>など海外人気が高い<sup>12)</sup>。なお、NARUTOが海外で人気がある理由の一つとして、岸本自身は、NARUTOが海外で好まれる文化である忍者をテーマにしていること、かつその忍者が青い瞳で金髪と日本人離れしており海外で受け入れやすいビジュアルである点を述べている<sup>13)</sup>。

表1 Wikipediaの言語版数が多い日本マンガ著者

順位	言語版数	著者名	順位	言語版数	著者名
1	91	宮崎 駿	25	26	和月 伸宏
2	58	手塚 治虫	25	26	あずま きよひこ
3	54	岸本 斉史	25	26	大友 克洋
3	54	鳥山 明	29	25	士郎 正宗
5	48	尾田 栄一郎	30	24	井上 雄彦
6	46	新海 誠	30	24	あだち 充
7	43	高橋 留美子	30	24	臼井 儀人
8	38	久保 帯人	33	23	水木 しげる
8	38	今 敏	33	23	星野 桂
10	36	武内 直子	33	23	矢沢あい
11	35	青山 剛昌	36	22	平野 耕太
12	34	小畑 健	36	22	種村 有菜
13	33	荒川 弘	38	21	東野 圭吾
14	32	CLAMP	38	21	渡瀬 悠宇
14	32	大場 つぐみ	38	21	浅野 いにお
14	32	杉森 建	38	21	岡本 倫
17	30	伊藤 潤二	38	21	天野 明
17	30	三浦 建太郎	38	21	長谷川 町子
19	28	松本 零士	38	21	川原 礫
19	28	赤松 健	38	21	石ノ森 章太郎
19	28	浦沢 直樹	46	20	池田 理代子
19	28	荒木 飛呂彦	46	20	谷口 ジロー
23	27	富樫 義博	46	20	岸本 聖史
23	27	諫山 創	46	20	永井 豪
25	26	真島 ヒロ			

さらに、言語ごとに日本マンガ著者数の集計をおこなった。その結果を表2に示す。この表は4,008の日本マンガ著者のうち、その言語で記事が存在する日本マンガ著者数を示している。たとえば、日本語版Wikipediaでは4,008人の日本マンガ著者のうち、3,721件の記事が存在したことを意味する。表2で示すように日本語版に続いて、記事数が多いのは中国語版、英語版であり、これらは言語話者数等から考えても理解できる順位といえる。なお、中国語版のWikipediaは、中国大陸からアクセスできないようになっており<sup>14)</sup>、中国語圏全体の海外進出状況を必ずしも示していない点には注意が必要である。また、日本マンガの人気が高いといわれているフランス<sup>15),16)</sup>が、日本を除いた場合の3位となっていることも解釈が難しくない結果といえる。

表2 日本マンガ著者のWikipedia記事が多い言語

順位	著者数	言語	順位	著者数	言語
1	3,721	日本語	16	133	閩南語
2	1,106	中国語	17	115	ベトナム語
3	849	英語	18	109	インドネシア語
4	618	フランス語	19	95	マレー語
5	444	イタリア語	20	89	スウェーデン語
6	405	スペイン語	21	71	タイ語
7	341	朝鮮語	22	64	ウクライナ語
8	328	ドイツ語	23	62	フィンランド語
9	257	アラビア語	24	59	ペルシア語
10	204	エジプト・アラビア語	25	43	トルコ語
11	193	ポルトガル語	26	41	ハンガリー語
12	177	ロシア語	27	36	シンプル英語
13	175	カタルーニャ語	28	28	エスペラント語
14	161	オランダ語	29	27	ガリシア語
15	152	ポーランド語	30	26	広東語

表2で上位の言語の文化圏においては、日本マンガ著者が多く進出していることがうかがえた。ただし、日本マンガ著者の記事が多い理由が、その言語のWikipedia総記事数が多いためであった場合、順位がそのまま当該の言語圏における日本マンガの人気を示しているといえない側面もある。そこで、Wikipediaの全言語版の記事統計<sup>17)</sup>の値を用いて、日本マンガ著者の記事の割合を求めることもおこなった。表3は、言語別の日本マンガ著者に関する記事数をそれぞれの言語の総記事数で除し、パーセント表記したものである。たとえば、日本語版の場合、マンガ記事数が3,721件、Wikipediaの総記事

数が1,392,319件であるため、0.2673%となる。なお、表3では、日本マンガ著者の記事数が50以下の言語版については除外している。

表3 Wikipedia各言語版における日本マンガ著者の記事の割合

順位	言語	割合
1	日本語	0.2673%
2	中国語	0.0798%
3	朝鮮語	0.0525%
4	タイ語	0.0444%
5	閩南語	0.0307%
6	マレー語	0.0258%
7	イタリア語	0.0242%
8	フランス語	0.0241%
9	カタルーニャ語	0.0237%
10	スペイン語	0.0213%
11	アラビア語	0.0210%
12	ポルトガル語	0.0173%
13	インドネシア語	0.0163%
14	英語	0.0126%
15	エジプト・アラビア語	0.0126%
16	ドイツ語	0.0115%
17	フィンランド語	0.0110%
18	ポーランド語	0.0096%
19	ロシア語	0.0091%
20	ベトナム語	0.0089%
21	オランダ語	0.0075%
22	ペルシア語	0.0060%
23	ウクライナ語	0.0049%
24	スウェーデン語	0.0035%

日本マンガ著者の割合であるため、当然ながら日本語版における記事が多く、2位の中国語版に比べて3倍程度の割合を占め、突出していることがうかがえる。上位5位以内は、中国語版や韓国語版など日本の近隣国で使用される言語の版が入っている。なお、表2において3位であった英語版は、総記事数も多いため、表3においては14位となっており、割合という点から見た場合は、日本マンガ著者が特に進出している言語圏とはい

えなくなる。

また、タイ語版では、Wikipediaの総記事数に比して、日本マンガ著者記事数が多い。そのため、表2では21位であったが、表3においては4位となっており順位がかなり変動している。たとえば、箕曲は、タイにおいて日本マンガが広く受容されていることを報告している<sup>18), 19)</sup>。また、アニメやコミック、ゲーム等の関連商品を販売している大手企業のアニメイトには、海外店舗として、中国5店舗や台湾3店舗、韓国2店舗、北米1店舗に加えて、タイのバンコクにアニメイトが2店舗存在している<sup>20)</sup>など、日本マンガに関して一定の需要があることがうかがえる。

ここまでみてきたようにWikipediaの記事数分析によって、ある程度解釈できる「Wikipediaの言語版数が多い日本マンガ著者」(表1)や「日本マンガ著者の記事が多い言語」(表2, 表3)を作成できることが分かった。日本マンガ著者を対象とした場合でも、Wikipedia記事分析により海外進出状況を調査できる可能性が示されたといえよう。

### 3. Wikipedia記事に含まれる情報量からみた日本マンガ著者の海外進出状況

ここでは、観点2の可能性を検証するために、記事の情報量に基づいた分析をおこなう。具体的には、2. 1で求めた日本マンガ著者のリストを用いてWikipediaの記事を収集し、収集した記事に含まれる情報量を集計する。

#### 3. 1 分析方法

先行研究<sup>5)</sup>や本稿2章でおこなった記事数による分析では、各言語版において、Wikipediaの記事が存在するか否かまでしかみておらず、存在すれば1、存在していなければ0として集計する。すなわち、Wikipediaの記事が存在する言語圏の進出状況は全て同じ1として処理され、「その進出の程度は全て等しい」ことが手法の前提となっている。

しかしながら、この前提が適切であるとは考えにくい。たとえば、宮崎駿のWikipedia記事は91存在するが、宮崎駿がよく知られている言語圏もあれば、わずかししか知られていない言語圏もあるであろう。Wikipediaの記事を分析する際に、Wikipediaの記事が「存在する」か「存在しない」の2値的な情報を用いる手法は粗いものと指摘することができ、海外進出状況を明らかにするにおいて限界があると考えられる。

そこで本稿では、この海外進出状況をより詳細にとらえるために、Wikipediaの記事に含まれる情報量を用いることを試みる。Wikipediaの記事に含まれる情報量が多い著者は当該の言語圏によく知られており、逆にWikipedia記事の情報量がわずかしかないマンガ著者は当該の言語圏においてあまり知られていないととらえる発想である。

本稿では、最も単純な「記事に含まれる文字数」をWikipedia記事の情報量を測る方法として用いる。たとえば英語の記事だけを分析するような場合には「文字数」よりも「語数」をみる方法がより適切であるとも考えられる。しかしながら、本稿は初期的

な試みであり、また様々な言語の記事を対象とするため、同一の基準で容易に測定できる点を考慮し、「文字数」を採用する。

ただし、1文字あたりの情報量は言語によって異なるため<sup>21)</sup>、次節以降では、直接的な文字数ではなく、言語ごとに日本マンガ著者の情報量の順位を求め、その順位によって分析をおこなう。記事数による分析では、2値的に集計がおこなわれるため、一つの言語版のなかでマンガ著者の進出の程度について差を設けられず順位付けをおこなうことができない。記事に含まれる文字数を用いることで、情報量に基づいて順位付けできるため、進出の程度をみるのが可能となる。

Wikipedia記事の文字数を集計するためには、Wikipedia記事を実際に収集する必要がある。この記事収集には、Pythonライブラリのwikipedia-1.4.0を用いる。記事の収集においては、VIAFデータのURLに含まれる記事タイトルに相当する文字列を検索キーにして、収集をおこなう。たとえば、URLが[https://en.wikipedia.org/wiki/Hayao\\_Miyazaki](https://en.wikipedia.org/wiki/Hayao_Miyazaki)の場合、「Hayao Miyazaki」が検索キーとなる。なお、VIAFデータのURLにアクセスした場合に、著者のマンガ作品や他の著者など別の記事に自動転送されるもの（たとえば、英語版においては、藤子・F・不二雄の記事は、藤子・不二雄の記事に転送される）については、統一した基準で分析することが難しいため、記事が存在しないものとして扱う。

各記事の文字数の集計には、各記事から画像や表、出典等のその他の部分を除いた記事の内容部分のプレーンテキスト（wikipedia-1.4.0のWikipediaPageクラスにおけるcontent）を利用する。このプレーンテキストから改行コードとタブ記号を除去した後、文字数を求める。

表4が、宮崎駿の各言語版のWikipedia記事の文字数を求めた結果である。表4から分かるように、各言語の記事の情報量は一様ではない。フランス語版のように、57,840字の情報量がある記事がある一方で、1,000字に満たないような言語版も多く存在する。文字数に基づく分析方法では、このような情報量の違いを考慮しながら、海外進出の詳細な調査をおこなおうとするものである。

表4 各言語版における宮崎駿の記事の文字数に基づく情報量

順位	言語	文字数	順位	言語	文字数	順位	言語	文字数
1	フランス語	57,840	31	フィンランド語	6,813	61	エジプト・アラビア語	1,379
2	アフリカーンス語	48,385	32	カザフ語	6,690	62	アラゴン語	1,308
3	英語	44,366	33	ポーランド語	6,607	63	テルグ語	1,270
4	ポルトガル語	38,145	34	セルビア・クロアチア語	6,579	64	マケドニア語	1,267
5	イタリア語	37,005	35	ウイグル語	6,558	65	バスク語	1,261
6	ベルシア語	34,731	36	クロアチア語	6,533	66	ラトビア語	1,188
7	スウェーデン語	32,026	37	ノルウェー語	6,220	67	シンプル英語	1,186
8	日本語	30,212	38	ベラルーシ語	5,853	68	閩南語	1,110
9	マラーヤラム語	27,361	39	トルコ語	5,387	69	ヴェブス語	1,109
10	ロシア語	27,307	40	セルビア語	5,139	70	リグリア語	897
11	ブルトン語	21,794	41	広東語	4,808	71	サルデーニャ語	608
12	ドイツ語	20,632	42	ピカルディ語	4,738	72	ルーマニア語	564
13	スペイン語	18,892	43	アラビア語	4,683	73	タガログ語	552
14	ヘブライ語	18,762	44	スロベニア語	4,651	74	ヤクート語	435
15	アストゥリアス語	15,969	45	キルギス語	4,282	75	ラテン語	401
16	ウクライナ語	14,342	46	スロバキア語	4,237	76	イロカノ語	397
17	朝鮮語	14,299	47	エストニア語	3,966	77	ベンガル語	387
18	カタルーニャ語	13,070	48	ガリシア語	3,377	78	マダガスカル語	366
19	タイ語	12,850	49	ギリシア語	3,293	79	ナワトル語	365
20	グルジア語	12,258	50	ソラニー	2,502	80	ルクセンブルク語	339
21	ベトナム語	11,691	51	エスペラント語	2,424	81	閩東語	283
22	オランダ語	11,636	52	トゥヴァ語	2,402	82	エルジャ語	246
23	中国語	11,350	53	ハンガリー語	2,302	83	ウェールズ語	193
24	インドネシア語	9,799	54	低地ドイツ語	2,117	84	ワライ語	172
25	ベラルーシ語 (タラシケヴィツァ)	9,426	55	チェコ語	2,109	85	呉語	149
26	アゼルバイジャン語	9,147	56	マレー語	1,904	86	モンゴル語	133
27	リトアニア語	8,548	57	中央ビコル語	1,755	87	インターリングア	112
28	デンマーク語	7,824	58	タタール語	1,604	88	セブアノ語	111
29	アルメニア語	7,377	59	ウズベク語	1,486	89	ワロン語	101
30	ブルガリア語	7,107	60	オック語	1,421	90	タジク語	97
						91	ブギ語	41

### 3. 2 各言語版の情報量に基づく順位の全体的な比較

3. 1で示した方法により各日本マンガ著者の記事の文字数を測定し、言語版ごとに日本マンガ著者の情報量の順位を求めた。本稿では、日本マンガ著者の記事が多い言語(表2)の上位四つ(日本語版、中国語版、英語版、フランス語版)を分析対象とした。なお、四つの言語版のいずれにも記事が存在しない場合は当該の日本マンガ著者を分析の対象から除外している。また、一つ以上の言語版に記事が存在する場合は、分析の対象に含めることとし、記事が存在しない言語版では情報量を0として扱い最下位の順位とした。

まず、四つの言語の順位を全体的に比較する分析をおこなった。表5は、四つの言語のマンガ著者の情報量に基づく順位について、言語のペアごとにスピアマンの順位相関係数を算出した結果である。この順位相関の係数は、二つの言語版のマンガ著者の順位がどれくらい関連しているかを示すものである。表5においては、相関係数にマイナス



の値が存在しないため、数字が1に近いほどその二つの言語版の順位は似ていると単純に解釈している（同一言語で比較した場合は1となる）。

表5で示すように、最も順位が似ているのは英語版とフランス語版のペアであり、係数が0.6を超えている。四つの言語圏のうち、英語圏とフランス語圏はいわゆる西洋の文化域と考えられるため、このペアの相関が高いことは理解しやすい。

また、傾向として、どの言語版においても日本語版との係数が最も低く、中国語版は日本語版とよりも、英語版やフランス語版との方がより似ていることを示している。この結果についてはさらに分析を進める必要があるが、日本語版が自国のマンガ著者の情報量であるため独自の順位になっていることや、海外に進出していくような人気の高い日本マンガの著者群がある程度同じであるといったことが考えられる。

表5 各言語版における日本マンガ著者の順位相関

	日本語	中国語	英語	フランス語
日本語	1.000	0.306	0.391	0.307
中国語	-	1.000	0.495	0.404
英語	-	-	1.000	0.630
フランス語	-	-	-	1.000

### 3.3 各言語版において情報量が多い日本マンガ著者

ここでは、各言語版において情報量の多い日本マンガ著者を具体的に概観し、情報量に基づく分析方法の可能性をみる。表6, 7, 8, 9は、各言語版の情報量の多い日本マンガ著者上位30を示すものである。各表においては、それぞれの著者の他言語版での順位についても示している。

表6が日本語で情報量の多い日本マンガ著者である。日本語版の1位は手塚治虫であるが、他の言語版ではやや順位が下がっている。一方、英語版、中国語版、フランス語版において1位である宮崎駿は、日本語版においては5位にとどまっている。このことは代表的な日本マンガ著者のイメージが、日本と海外とは異なることを示唆するものといえる。

また、日本語版の2位は蛭子能取であるが、他言語版において順位がかなり低い。これは蛭子能取がマンガ著者としてだけでなく、日本においてテレビタレントとしてよく知られているためと考えられる。日本語版ではテレビタレントとしての影響から情報量が多くなっているが、海外ではその影響が少ないため情報量が少なくなっていると解釈できる。

日本語版で3位の水木しげるは、英語版やフランス語版では30位よりも低いものの中国語版では6位となっている。この要因の一つとして、水木しげるが主として描く対象

が妖怪であることを挙げることができる。水木しげる自身は日本の妖怪は中国出身のものも多いと述べており<sup>22)</sup>、また、中国の妖怪と日本の妖怪の関連性についての調査もいくつもおこなわれている<sup>23), 24)</sup>。このような文化的背景が、水木しげるが英語圏やフランス語圏よりも、中国語圏においてより進出していることに関連していると考えられることができる。

表6 日本語版で情報量が多い日本マンガ著者

著者名	日本語	中国語	英語	フランス語	著者名	日本語	中国語	英語	フランス語
手塚治虫	1	23	4	3	石ノ森章太郎	16	76	73	18
蛭子能収	2	1,105	410	619	徳井青空	17	49	77	619
水木しげる	3	6	31	37	竹宮恵子	18	131	71	202
つげ義春	4	614	30	13	東野圭吾	19	10	15	36
宮崎駿	5	1	1	1	ねごちる	20	1,105	112	533
菊地秀行	6	237	101	619	小林よしのり	21	277	213	22
鳥山明	7	3	3	10	西尾維新	22	41	2	192
わたなべまさこ	8	916	593	289	長谷川町子	23	331	218	226
高森朝雄	9	279	471	299	さくらももこ	24	172	382	186
赤塚不二夫	10	196	20	133	みうらじゅん	25	1,105	838	619
楠見らんま	11	1,105	838	619	佐藤大輔	26	1,026	368	132
荒木飛呂彦	12	29	28	14	藤子・F・不二雄	27	30	838	435
萩尾望都	13	191	8	4	藤子不二雄A	28	34	838	274
吾妻ひでお	14	573	42	179	高橋留美子	29	15	23	46
松本零士	15	289	96	49	西尚美	30	991	838	619

表7が中国語版で情報量の多い日本マンガ著者である。2位の古川愛李は、アイドル(SKE48)としての活動に関する楽曲名や出演番組名が多数列記されているため文字数が多くなっており、これが要因で中国語版だけで上位になっている。また、7位の新海誠と11位の井上雄彦も、中国語版でのみ上位になっている傾向にある。新海誠は「君の名は。」「すずめの戸締まり」、井上雄彦は「THE FIRST SLAM DUNK」等の作品が中国で人気であり、映画の興行収入の記録も作っている<sup>25)</sup>。

表7 中国語版で情報量が多い日本マンガ著者

著者名	中国語	日本語	英語	フランス語	著者名	中国語	日本語	英語	フランス語
宮崎駿	1	5	1	1	赤松健	16	260	60	69
古川愛李	2	168	394	363	倉金章介	17	181	759	418
鳥山明	3	7	3	10	佃煮のりお	18	220	615	619
上藤政樹	4	84	838	619	いとうのいぢ	19	300	141	235
今敏	5	31	13	5	種村有菜	20	241	29	115
水木しげる	6	3	31	37	小畑健	21	201	67	108
新海誠	7	32	80	76	みやま零	22	647	631	619
岡崎京子	8	117	136	344	手塚治虫	23	1	4	3
浦沢直樹	9	104	7	8	三嶋くろね	24	209	695	305
東野圭吾	10	19	15	36	麻枝准	25	90	26	293
井上雄彦	11	150	113	86	虚淵玄	26	183	243	328
ろくでなし子	12	115	14	200	後藤圭二	27	133	38	619
CLAMP	13	95	11	21	如月群真	28	819	838	24
藤田和日郎	14	153	236	261	荒木飛呂彦	29	12	28	14
高橋留美子	15	29	23	46	藤子・F・不二雄	30	27	838	435

表8が英語版で情報量の多い日本マンガ著者である。2位の西尾維新は、中国語版の2位と同様、作品名が多数列記されていることが影響し英語版だけで上位となっている。また、NARUTOの著者である5位の岸本斉史やゲイ作品を描いている6位の田亀源五郎は、日本語版の順位と比べて差が特に大きい。両者のマンガ著者としての位置づけ等が日本と英語圏で異なっているということもありうる。その他、特筆すべき点としては、22位の松本かつちが、他の3言語においてはかなり下位になっていることが挙げられる。この記事はもともと、マンガ研究をしているThorn（京都精華大学）が、英語圏の人たちに松本かつちを紹介する意図で、松本かつち側から許可を得て作成したものである<sup>26)</sup>。英語版だけにそのマンガ著者についての詳細な記事を書くユーザーが存在したため、結果的に英語版だけで上位となっていることが考えられる。

表8 英語版で情報量が多い日本マンガ著者

著者名	英語	日本語	中国語	フランス語	著者名	英語	日本語	中国語	フランス語
宮崎駿	1	5	1	1	やなせたかし	16	42	81	310
西尾維新	2	22	41	192	大友克洋	17	45	107	25
鳥山明	3	7	3	10	辰巳ヨシヒロ	18	378	830	85
手塚治虫	4	1	23	3	星野桂	19	1,525	40	26
岸本斉史	5	1,151	48	34	赤塚不二夫	20	10	196	133
田亀源五郎	6	420	44	72	寺田克也	21	342	1,105	367
浦沢直樹	7	104	9	8	松本かつぢ	22	1,111	1,105	413
萩尾望都	8	13	191	4	高橋留美子	23	29	15	46
永井豪	9	61	688	2	尾田栄一郎	24	56	99	19
伊藤潤二	10	144	46	59	和月伸宏	25	334	96	217
CLAMP	11	95	13	21	麻枝准	26	90	25	293
車田正美	12	296	169	52	福本伸行	27	167	54	155
今敏	13	31	5	5	荒木飛呂彦	28	12	29	14
ろくでなし子	14	115	12	200	種村有菜	29	241	20	115
東野圭吾	15	19	10	36	つげ義春	30	4	614	13

表9がフランス語版で情報量の多い日本マンガ著者である。6位の谷口ジローは、「ヨーロッパで最も人気のある日本人作家の一人」として紹介されることもあり<sup>27)</sup>、またフランス政府から芸術文化勲章シュヴァリエを受章しているなど、フランスで人気のマンガ著者である。16位の花村えい子も、フランス国民芸術協会から特別賞等を受賞しており、フランスでの人気が高いと考えられる日本マンガ著者である。なお、7位の垣野内成美は、中国語版と英語版の2位の著者と同様に、作品名が多数列挙されたことが影響しフランス語版だけで上位となっている。

表9 フランス語版で情報量が多い日本マンガ著者

著者名	フランス語	日本語	中国語	英語	著者名	フランス語	日本語	中国語	英語
宮崎駿	1	5	1	1	花村えい子	16	488	896	838
永井豪	2	61	688	9	さかもと未明	17	33	1,105	838
手塚治虫	3	1	23	4	石ノ森章太郎	18	16	76	73
萩尾望都	4	13	191	8	尾田栄一郎	19	56	99	24
今敏	5	31	5	13	松本大洋	20	645	912	204
谷口ジロー	6	139	97	129	CLAMP	21	95	13	11
垣野内成美	7	252	37	76	小林よしのり	22	21	277	213
浦沢直樹	8	104	9	7	上条明峰	23	2,981	847	515
安野モヨコ	9	274	273	301	如月群真	24	819	28	838
鳥山明	10	7	3	3	大友克洋	25	45	107	17
上田とし子	11	510	1,105	36	星野桂	26	1,525	40	19
原哲夫	12	333	487	66	赤石路代	27	480	73	654
つげ義春	13	4	614	30	咲坂伊緒	28	544	261	775
荒木飛呂彦	14	12	29	28	中沢啓治	29	102	254	130
牧美也子	15	2,570	837	49	山岸涼子	30	99	873	298

以上、3. 2と3. 3において、日本語、中国語、英語、フランス語の四つの言語版を対象とし、各言語版の情報量に基づく順位の全体的な比較、および各言語の具体的な上位の著者について概観をおこなった。全体的な比較では、理解しやすい結果や今後さらに分析を進めるのに値するような結果が得られた。また、概観においても、各言語圏において特有な日本マンガ著者の海外進出状況の事例を見出すことができた。これらのことから、記事の情報量に基づいて分析することにより、従来よりも詳細な調査をおこなうことができる可能性が示されたといえる。

#### 4. まとめと今後の課題

本稿は多言語版Wikipedia記事分析による日本マンガ著者の海外進出状況調査の可能性を二つの観点で明らかにすることであった。2章においては、日本マンガ著者を対象とした場合でも、Wikipedia記事分析により海外進出状況を調査できる可能性（観点1）を明らかにした。また、3章においては、記事の情報量に基づいて分析することにより従来よりも詳細な調査をおこなうことができる可能性（観点2）を明らかにした。

今後の課題としては、まず記事の情報量を求める方法をより高度化させる必要があることが挙げられる。3章でも述べたように、本稿の方法では、作品名が多数列記される記事については情報量が多く測定されるため、補正をおこなうような仕組みを導入することが求められる。また、本稿では、全ての言語において単純な文字数により測定したが、分析の単位を語にすることや、各言語における1文字あたりの情報量の違いを反映させることも考えるべきであろう。その他、一人のユーザーによって作成されたような記事についての扱いについても、検討が必要である。日本マンガや日本マンガ著者の海外進出状況を調査するという目的においては、少ないユーザーによって記述されたページと多くのユーザーによって記述されたページに差を設けることも試行してみるべきである。その際、Wikipedia記事の質に関する研究<sup>28)</sup>の成果等を活用することができると考えられる。

#### 謝辞

本稿の執筆にあたり、亜細亜大学の安形輝教授にデータの収集に関する助言をいただきました。なお、本稿はJSPS科研費JP18K11996の助成を受けたものです。

#### 引用文献

- 1) 椎名ゆかり. アメリカの図書館はいかにマンガを所蔵するようになったか: 大衆文化の文化ヒエラルキーの変遷. 情報の科学と技術. 2014, vol. 64, no. 4, p. 146-152.
- 2) 大谷康晴, 安形輝, 橋詰秋子, 江藤正己, 安形麻理, 杉江典子. 米国議会図書館における日本のマンガの所蔵. 日本図書館情報学会研究大会発表論文集. 2018, p. 115-116.
- 3) 安形輝, 大谷康晴, 江藤正己, 杉江典子, 安形麻理, 橋詰秋子. ウェブ上の集合知を応用した日本マンガ

翻訳書誌作成の試み. 日本図書館情報学会研究大会発表論文集. 2021, p. 63-64.

4) Eto, M., Agata, T., Sugie, N., Otani, Y., & Agata, M. Can Japanese Manga Be Automatically Classified from Public Library Holdings? Proceedings of the ACM/IEEE Joint Conference on Digital Libraries. 2017, p. 287-288.

5) 江藤正己, 安形輝. 日本マンガの海外進出状況調査における多言語版Wikipedia記事分析の可能性. 学習院女子大学紀要. 2023, vol. 25, p. 43-54.

6) Otani, Y., Agata, T., Hashizume, A., Eto, M., Agata, M., & Sugie, N. Using VIAF Dataset and the National Bibliography for Identifying and Listing Comics and Manga Authors, Proceedings of ACM/IEEE Joint Conference on Digital Libraries. 2019, p. 422-423.

7) 安形輝, 江藤正己, 杉江典子, 橋詰秋子, 大谷康晴. 日本のマンガ著者の国際的な受容: VIAFと日本全国書誌を組み合わせた分析. 日本図書館情報学会春季研究集会発表論文集. 2020, p. 29-32.

8) 川鍋道子. バーチャル国際典拠ファイル (VIAF) について. 情報の科学と技術. 2021, vol. 71, no. 10, p. 452-455.

9) OCLC. "VIAF Dataset". VIAF. <https://viaf.org/viaf/data/>. (accessed 2023-08-21).

10) 電ファミニコゲーマー. 『ドラゴンボール』と『ナルト』の元担当編集が語る「ジャンプ」の裏側 — 絶対に敵わない『ワンピース』に勝つために『ナルト』が取った戦略とは【鳥嶋和彦×矢作康介×鶴之澤伸×松山洋】. 2019-12-27. <https://news.denfaminicogamer.jp/interview/191227f>. (参照2023-12-01).

11) Google Japan. "2023年Google 検索ランキングを発表". Google Japan Blog. 2023-12-15, <https://japan.googleblog.com/2023/12/year-in-search-2023.html>. (参照 2023-12-20).

12) 久保隆志. 欧米で「NARUTO」が何故か大ヒット 安定期迎えたマンガ海外進出の行方. 創. 2007, vol. 37, no. 5, p. 64-71.

13) 世界に挑む日本のエンタテインメント: NARUTO —ナルト—. 日経エンタテインメント!. 2012, no. 9, p. 108-109.

14) 多部田俊輔. 中国、ウィキペディア遮断 天安門事件30年控え規制か. 日本経済新聞. 2019-05-18, 朝刊, p. 5.

15) 川又啓子. フランスにおけるマンガ事情. 京都マネジメント・レビュー. 2009, no. 15, p. 79-100.

16) 川又啓子. コンテンツの創造基盤の日仏比較に関する予備的考察: マンガを事例として. 商学論究. 2013, vol. 60, no. 4, p. 181-198.

17) "Wikipedia: 全言語版の統計". ウィキペディア. <https://ja.wikipedia.org/wiki/Wikipedia:全言語版の統計>. (参照2023-11-25).

18) 箕曲在弘. タイにおける日本製大衆文化の受容: マンガ、音楽、テレビドラマを中心にインターカルチュラル: 日本国際文化学会年報. 2006, no. 4, p. 137-151.

19) 箕曲在弘. タイにおける日本製マンガの受容: 文化のグローバル化とローカル化. 早稲田大学大学院文学研究科紀要. 第3分冊. 2007, vol. 52, p. 63-70.

20) アニメイト. "店舗情報". <https://www.animate.co.jp/shop/>. (参照2023-12-01).

21) Neubig, G. & Duh, K. ツイートの情報量について: 情報理論に基づく多言語調査. 言語処理学会第20回年次大会発表論文集. 2014. [https://www.anlp.jp/proceedings/annual\\_meeting/2014/pdf\\_dir/E7-4.pdf](https://www.anlp.jp/proceedings/annual_meeting/2014/pdf_dir/E7-4.pdf). (入手 2023-12-1).

22) 水木しげる. 水木しげるの中国妖怪事典. 東京堂出版, 1990, 202p.

23) 崔豊韜. 東アジアの妖怪像: 中国の妖怪像の変化と他国の妖怪像に与える影響. 宝塚大学, 2016, 博士論文.

24) 謝宇龍. メディアコンテンツにおける妖怪文化の伝承と発展. 日本マス・コミュニケーション学会研究発表論文集 (2012年春季). 2012. [https://mass-ronbun.up.seesaa.net/image/2012Spring\\_C3\\_Xie.pdf](https://mass-ronbun.up.seesaa.net/image/2012Spring_C3_Xie.pdf). (入手 2023-12-1).

25) 浦上早苗. 「スラムダンク」中国人がこんなにも熱狂する背景. 東洋経済ONLINE. <https://toyokeizai.net/articles/-/668820>. (参照2023-12-01).

26) "松本かつぢのウィキペディア". クルミちゃん日記 (松本かつぢ公式ブログ). 2008-07-24, <http://kurumifriend.blog122.fc2.com/blog-entry-39.html>. (参照2023-12-01).

27) 鳥取県輝く鳥取創造本部観光交流局まんが王国官房. "谷口ジロー先生". とりネット (鳥取県公式サ

イト). <https://www.pref.tottori.lg.jp/291428.htm>, (入手 2023-12-01).

28) 鈴木優. Wikipediaにおける情報の質. 情報処理学会論文誌: データベース. 2013, vol. 6, no. 4, p. 46-58.

(本学准教授)

